

みづからの歩幅で歩くほかはない
道にさく花たんぽぽ・すみれ





昭和36年7月30日札幌／北海道大学ホララ並木にて

企画展／没後40年記念

歌人
安田青風展

2023年

1月14日  → 3月26日 

※休館日：毎週月曜日、2月24日(金)、3月22日(水)

会場／姫路文学館 北館

開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料／一般310円、大学・高校生210円、中学・小学生100円(常設展料金)

※20名以上の団体は2割引 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方(手帳またはマイロIDの手帳画面を提示してください)及び介護者1人、姫路市内在住の65歳以上の方、どんぐりカード・ココロカード提示の小中学生は無料

■主催／姫路文学館



姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE

<http://www.himejibungakukan.jp/>

この道で駄目なら、私のすべてが 駄目なのだと言わねばならぬ。



(白珠昭和24年11月号)

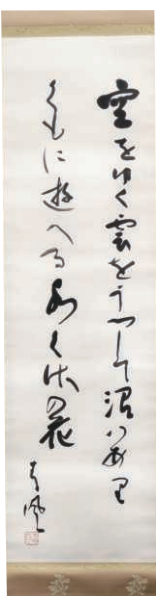
兵庫県揖保郡太子町生まれの歌人安田青風。わずか十四歳にして小学校の准訓導(教員)となつて間もなく短歌を作り始め、八十七歳で亡くなるまで七十年以上にわたり歌とともに生涯を送りました。その人生は、明治から昭和に至る激動の時代のなかで常に歌を通して自らの心に向き合い、真理を求めつづける「歌の道」といふべき、真摯な姿勢に貫かれていました。

十四歳で出会った初恋の少女と結婚するまでの青春期。師範学校時代の青風は、三木露風ら中央の詩人たちと交流し、その苦しい恋を多くの詩歌に詠んだ早熟な投稿少年でした。

二十一歳で改めて教職に就き、大正デモクラシーのさなか、ベスタロッチやデューイを理想とする新しい時代の教師として先頭に立ち、社会教育、生涯教育を啓蒙するため、赴任した各地で果敢に行動した壮年期。

そして終戦。既に五十代を迎えていた青風は、荒廃した人々の心に、短歌によつて灯をともし、再びいち早く行動します。昭和二十一年、長男章生(一九一七-一九七九)とともに歌誌「白珠」を創刊。「知的抒情」の理念を掲げた同誌の成長は、青風のその後の生き方を如実に物語っているといえます。

青風掛軸
「空をゆく雲をうつして沼はあり
くもに遊べる水くさの花」



木の実とか草の根とかをわれ愛す
いのちをもちてしづかなるもの

教え子の一人であった随筆家の岡部伊都子は、青風を「清澄な風のように、透明な存在」と評しました。その名のおり「青い風のように多くの詩心を揺り動かした歌人がこの世を去つて四十年。その豊かな人生の遍歴と味わい深い歌の魅力に迫ります。



20代の頃に製作した手製の「青風パンフレット」

安田 青風 やすだ せいふう 明治28年(1895)―昭和58年(1983)

兵庫県揖保郡石海村吉福(現・揖保郡太子町吉福)生まれ。本名・喜一郎。14歳で小学校の准訓導となる。15歳の頃から短歌を作り始め、「現代詩文」(服部嘉香主宰)、「詩歌」(前田夕暮主宰)、「未来」(三木露風主宰)、室生犀星、山村暮鳥、萩原朔太郎の「卓上噴水」などに加わり詩歌を発表。大正4年、姫路師範学校本科第一部卒業。旧制龍野中学校、山崎高等女学校等で教鞭をとる。昭和3年、水藝社に入り、尾上柴舟、石井直三郎に師事。昭和12年、相愛高等女学校に転任のため、大阪府豊中市に転居。昭和21年、長男章生(歌人・国文学者)と共に、歌誌「白珠」を創刊。相愛高等女学校教頭を退いた後も大阪樟蔭女子大学講師、大阪城南女子短期大学教授として国文学を講じる。兵庫県立太子高等学校、太子町立石海小学校、宍粟市立山崎南中学校など校歌の作詞を数多く手がけ、大阪住吉大社、たつの市紅葉谷をはじめとして、各地に歌碑がある。昭和39年、大阪芸術賞(現・大阪文化賞)受賞、昭和43年、勲五等双光旭日章受章。昭和50年、太子町名誉町民となる。歌集に「春鳥」(昭和7年)、「街空」(昭和22年)、「歳月」(昭和25年)、「季節」(昭和30年)、「遍歴者」(昭和39年)、「立岡山」(昭和55年)がある。



「白珠」創刊号
昭和21年(1946)11月



主な著作

記念イベント 会場／姫路文学館講堂(北館3階) 参加無料

記念講演会「祖父安田青風を語る」

- 日時／1月14日(土) 午後1時30分～3時(開場:1時)
- 講師／安田純生氏(歌人、歌誌「白珠」代表、安田青風孫)
- 定員／100人(事前申込不要、当日先着順)

展示解説会

- 日時／2月25日(土) 午後1時30分～3時(開場:1時)
- 講師／担当学芸員 ●定員／100人(事前申込不要、当日先着順)



姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL.079-293-8228
http://www.himejibungakukan.jp/

他館イベントのご案内
「コレクションギャラリー」西洋美術に見る心の中の世界 1月21日(土)～3月5日(日)
姫路市立美術館 ☎079-222-2288
新春特別展「播磨に息づく匠の技」1月6日(金)～3月5日(日)
姫路市立美術館 ☎079-267-0301

QRを読み込んで簡単アクセス
姫路文学館公式アカウントで情報やつぶやきを発信中!
注意事項 ●新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力ください。
●状況により変更が生じる場合があります。最新情報を当館ウェブサイト等でご確認の上、ご来館ください。

ア ●JR・山陽電鉄姫路駅より神姫バス9-10-17-18番のりば(一部停車しない系統があります。ご確認ください)で乗車6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩4分。6番のりば城岡辺観光ループバス乗車10分、清水橋(文学館前)下車、西へ徒歩3分
ス ●山陽自動車道姫路東IC.あるいは姫路西IC.下車約20分 ●姫路バイパス中地ランプ下車約15分